

令和5年度 第3回富田林市金剛地区再生指針推進協議会 会議録

富田林市 産業まちづくり部 金剛地区再生室

日 時： 令和6年1月15日（月）10時～12時

場 所： 市役所金剛連絡所2階 ホール

出席者：

【委員】：13名

増田 昇（会長）、中井 二郎（副会長）

友田 研也、新里 恵美、吉村 明、小野 達也、喜多 忠、廣崎 祥子

島岡 秀行、木全 剛司、高橋 大河（大山 美里の代理）、今西 佳子、

品田 忠司

欠席者4名

溝口 俊則、駒田 尚紀、占部 訓司、森木 和幸

【事務局】：6名

〔富田林市 産業まちづくり部 金剛地区再生室〕

塚本 隆之（室長）、松本 憲昌（室長代理）、竹川 智也（主査）、小川 公也（副主任）

〔特定非営利活動法人きんきうえぶ〕

寺田 誠（コンサルタント）、妹尾 美千代（コンサルタント）

【会長が認める関係者（設置要綱第5条第4項）】：0名

開催形態： 公開（傍聴人：0名）

次 第：1. 開会

2. 案件

（1）金剛地区再生指針の取組について

①地域のまちづくり活動について

②市が進める取組について

（2）その他

3. 閉会

議 事 録： 全文筆記

1. 開会

(事務局：塚本)

- ・設置要綱第5条第2項により協議会が成立していることの報告
- ・議事進行にかかる留意事項等の確認
- ・資料の確認

2. 案件

(増田会長)

皆さんおはようございます。

今年は、能登半島地震という心の痛む幕開けとなりましたけれども、本年もよろしく願いしたいと思います。

本日、ニュースで能登半島地震の避難所の状況を見ましたが、29年前の阪神淡路の時の避難所の状況とほとんど変わってない。

各ブースの中で、プライバシーを守るためのブースの設置もされてないし、テントもなかなか普及してない。

本当にまちづくりというのはこんな状態でいいんだろうかと。震災が起こるとか災害が発生するのは日本の国土の環境からいうと仕方がないですけど。そのあとの救援支援ですよね。

この辺りのあり方で、ほんとに喉元過ぎれば熱さ忘れるで、震災後は言われましたけれども、なかなか目に見えて改善されないのは根本的にまちづくりの問題だと思っています。

そんなことも心に置きながら、今年1年活動していきたいと思いますので、よろしく願いしたいと思います。

それでは本日、次第に基づいて進めたいと思いますけれども、初めに(1)金剛地区まちづくり会議運営会議についてという項目と、(2)各部会、プロジェクト等の取組について、これ少し時間がかかりますけれども一括進めしていただいて、個々で議論していきたいと思いますので、よろしく願いしたいと思います。

それでは一番最初の項目であるまちづくり会議運営会議についてということでご報告をお願いします。

(事務局：寺田)

資料1. (1) 金剛地区まちづくり会議運営会議について

(廣崎委員)

資料1. (2) -①わっく Café

(事務局：寺田)

資料1. (2) -②金剛マルシェ～地場産やさい市～

(友田委員)

資料1. (2) -③寺池公園等を活かしたまちづくりの会

(事務局：妹尾)

資料 1. (2) -④∞KONROOM

(増田会長)

(1) 金剛地区まちづくり会議運営会議についてと、(2) 各部会・プロジェクト等の取組についてですけど、何かご質問なりご意見ございますでしょうか。いかがでしょうか。はいどうぞ。

(新里委員)

わっくカフェなど、いろいろな活動がさらに進んでいるなっていうのも分かるんですけども、子ども食堂ってところでやっておられて、その内容も充実してるなっていうのも分かるんですけども、この金剛地区で「じじばば食堂」っていうか、そういうものもやはり、子ども食堂、子ども食堂っていうふうに、ちょっと日本中言われてますけども、私たちはにじいろサロンやっていると、奥さんが亡くなって、ご主人が 1 人になってるってそういう人たちの、やっぱり食生活っていうのがとても貧弱になってるようになっております。金剛地区の高齢化で奥さんが先に亡くなられた方を例にすると、ご主人は奥さんが早く亡くなると、7 割近い人が、もう 2、3 年のうちに亡くなるっていうのは、やっぱり貧困な食生活、その辺もあるんじゃないかなって。

それとあとコミュニケーションが取れないような状況になっていくので、子ども食堂も大事なんですけども、雑誌でも「じじばば食堂」っていうのが取り上げられたりしていますので、そういうのもちょっと金剛としても考えていってもいいのではないかなというふうには思いました。

(増田会長)

はい。ありがとうございます。そんな話は多分まちづくり会議でどんどん出していただいて、何人かやっただけの方が見つければ、大いにそういう新たな高齢者の居場所づくりとなりますので、非常に重要な側面であると。まちの活性化から考えると、子育て層というあるいは担い手、次世代というところに目が行きがちですけども、今住んでる人は終の棲家として、安心してここで暮らそうとするとやはりそういう高齢者の孤独解消というそのあたりも重要になってきますよ。今後、新しい活動が生み出されていったり、今ある活動が多く展開していくときに、まちづくり会議なんかはどうお手伝いできるか。というふうなことを心得て進んでいけばいいと思いますね。

(新里委員)

わっくカフェには負担をかけますけどね。じじばばの方もちょっと面倒を見てもらえたらと。

(中井副会長)

わっくカフェで今課題になってるのは、先ほどのメンバーの話もあるんですけども、夜の部ってのがありましてね、その夜の部の席の埋まり具合が非常に少ない。

ただ、今やってもらってるのは、例えばこの前の正月に、カクテルバーでアルコールを出して、老人の方に来ていただけるような場を時々作ってるんですけども、その回数が非常に少ないのと、PR してないというところがあってそのカレー食堂ほど、周知されてないところがあると思うんですけど

ど、その辺をもう少し広げていけば、新里さんが言ってるような、活動につながっていくのかなというふうに思っております。

(増田会長)

やっぱりそういう多世代につなげていくというのは大事で、私は今たまたま泉北で不登校生を見ていて、居場所づくりでやってるところは、駄菓子カフェと駄菓子バーっていう呼び方をする。

午前中は新しいカフェで、子どもの居場所で、それと少し時間が重なるような形で、駄菓子バーができると多世代の交流ができるという、何かそういう仕組みづくりですね。多世代でどう展開していくのかという、そんなことも必要かと思います。はい。他いかがでしょうか。

これカレー食堂で、中学生のボランティアが減ってきて、小学生も高学年になるとその駄菓子バーなんかで見てると、子どもがレジをしたりとか、そういう手伝いを喜んでするんですね。

そういう面では中学生のボランティアだけじゃなくて、小学生でも、高学年ぐらいになってやりたいっていう子が出てくると、ボランティアスタッフとして見てあげるということも大事かと思うんですけどね。その辺いかがでしょうかね。

(廣崎委員)

まさしく増田先生がおっしゃっているように、子どもたちをいかにボランティアへと参加する側じゃなくて、招く側に巻き込んでいくかっていうのは課題かなと思いますし、これまでずっと来ていた子どもたちがやっぱり成長していつているのでそういう役割が逆にある方が、カレー食堂に行きやすくなるっていうふうにはちょっと考えています。

(増田会長)

今までケアされた子が反対にケアする立場に、成長していくということですかね。そうすると、非常にいい循環になると思うんですね。ありがとうございます。他はお気づきの点いかがでしょうか。

(品田委員)

一番最初のことですけども、どこの地域のまちづくりにおいても、地域のプレーヤーの発掘というのは、非常に重要なポイントとなっていますので、まちづくりプレーヤーの募集企画っていうのはおもしろいと思います。

先ほど発表ありましたわっくカフェや寺池公園というのは金剛ニュータウンでは、市民の方が中心になって、いろんな領域で展開されているということ、それと、富田林市も当然それに伴走してるといようなことも皆さんにお伝えすれば、皆さん安心して募集っていうか、集まるのではないのでしょうか。

(増田会長)

はい。ありがとうございます。

子ども食堂に関しては私が今愛知県小牧市にある桃花台ニュータウンでの事例なんですけどね。

非常に元気な主婦な方が出てきて、子ども食堂を小学校の給食室と、ダイニングルームを使ってやりますと、なかなか敷居が高かったみたいなんですけど。

自分が元気に間に、あるいは今年中に去年は1校で成立したんですけど。すべての校区で展開できるような事をしたいとおっしゃってるんですね。

ある意味やはりこれから小学校というの、あるいは中学校も、課外活動が地域と連携するということになりますから、もっと教育委員会が敷居を低くして、地域とどういうことができるかという、一つのきっかけみたいな話が、食堂施設とかそういうこのカフェだけではなくてできるのではないかと思う。その辺りも少し、そういう動きが出てくると面白いなと思う。はい、新里委員。

(新里委員)

富田林でも1校だけ子ども食堂を学校でやっているところがあるんですが、私も同じように、やっぱり小学校で子ども食堂ができれば、とても裾野が広がっていき、利用する。だから是非富田林市でも教育委員会がやっていただけるといいと思います。

(増田会長)

もうひとつ、守口市で新たに小学校の統廃合をして、学校サービスが統合された新たな小学校では、小学校の建設当時からコミュニティカフェができるのを、食堂の横に作って常時運営してる。小学校の中に新設の小学校ですけども、ボランティアルームを作ってる。さらに、土日の活動を担保するために、交番も誘致している。

交番があるということになると、お巡りさんが放課後とか夜とか、土日にいるのでセキュリティの確保にも繋がっている。

そういう形で非常におもしろい小学校が、守口市は学校を再編する時、あるいは統廃合して廃止するというのは、地域にとって非常に大きなインパクトだと思う。それに見合うだけの地域、地域連携みたいなことを目指してる小学校、これからだんだん小学校はそういう方向で動いていかないといけないのかなと思う。

大山委員の代理、高橋さんですかね。

(高橋委員)

よろしくお願いします。社会福祉協議会の高橋です。ちょっと訂正というか、今、新里委員からご意見ありましたが富田林で子ども食堂は、川西ともう1つありまして、喜志小学校を借りて、子ども食堂をそれぞれの有志団体が行ってるところがありますのでお伝えしておきます。

あと、また小学校の場所のようなところでは、ちょっと社協がしてるわけじゃないので、僕が言うのもあれなんですけど。

富田林として、みんなが寄ってくるっていう意味で、ミナヨルだと思うんですけど、ミナヨルっていう名前愛称で、少子化の中ですよね。空き教室となっている多目的室って今まで言われているところをミナヨルっていう形にして、登録さえしたら、地域の方でも会議室としても使ったりできるし、またそういうような場所っていうのを、富田林市は16小学校区ありますけども、順々に開設して、そういう場所を作っていくべきだと思う。

(増田会長)

いややはりそういうことがあると、例えばこういう推進協議会、あるいはまちづくり会議なんかを小学校の教頭先生なり、校長先生に参画していただいて、うまく施設を連携しようと思うと、そういう広げかたっていうのはあると思う。せっかくいい事例があるんですからそれは、小学校でこう展開していくみたいなのができるといいなって思っております。小野先生もそのあたり何かございませんか。

(小野委員)

はい。いろいろありますけど、まずちょっと、少しだけ背景言いますとね、あのコロナがあって、地域活動が結構大変だったじゃないですか。福祉関係もほかのところもそうだったと思うんですけど。実はあのやっぱり唯一すごい拡大しているのが子ども食堂。これはもう数字に表れていて、コロナ前で大体 3,700、3,800 ぐらいだったが、今はもう 7,000 から 8,000 になってるんですね、この 3 年間だけで。これは全体ですけど、もう各地域もそんなことで、やっぱり子ども食堂ってインパクトがすごいっていうのは分かってるんです。さっきの「じじばば食堂」でもいいんですけど、何で子ども食堂を推すかっていうと子どもっていうとみんなが協力してくれる。そこは結構ポイントで、でも実際にはその子ども食堂って言いながらいろんな人が来れるような仕組みを作るっていうのが次の段階なんだろうなってのは、今の新里さんの話を聞いていて思いました。だから、今回もそうですがやっぱり子どものインパクトはすごく強いと思います。

実は、暮らしてみんなが暮らしてるんで、そこの全世代型のところをその中にどう入れてっていうのはおそらくそのポイントになるというふうに思いました。

さっきの小学校の例ですけどそのとおり小学校使えるのはすごくいいと思って。だから小学校が地域の拠点になってるということですね。

でもやっぱりもう 1 個あると思っていて、よく子ども食堂なんかでも、福祉施設なんかが、そこに持っている食堂の機能なんかを地域に出して行ってそこで子ども食堂をやるっていう、これは福祉施設の社会貢献っていうのをやるっていう方向で一致してるので、だからいろんな施設が、福祉施設だけじゃなくてですね、そういうものをお互い持ってる機能を社会的に提供し合ひしようっていう仕組みを作っていく場として、こういうところで、このアイデアあるよっていうのを出していくとも言った小学校もやるし、福祉施設もやるし、あるいは企業もやっていくみたいなイメージが会おうと、いろんな形でじゃあうちはこの形でやろうっていうのは出てくるだろうなっていうのは、今ので思いました。

もう 1 点だけ非常に興味深い報告が多かったので、一つだけ言います、これは寺池の取り組みで友田委員がおっしゃっていた時に最後の方でおっしゃっていたことなんですけど。

やっぱりトータルコーディネート強化っていうのは一応目標なんだっておっしゃってましたが、もう十分に組み組んでることが、要は、いろいろなところで組み組んでるところとかなり繋がりができてくるんだろうなっていうのがもう予想されますので、今やろうとしていることは今まですごい関わりだったのをどうやってそこに横串を通すかっていうことをどこもやりたいと思っています。

このまちづくりもそこに繋がっていて、ハードの方、ここはすごいなんていうか先見的なところですから増田先生がいらっしゃるんでハードだけじゃなくて、ソフトも一緒にやるという考え方が、うまくできていくと、この公園作るけどそこで先のまちづくり越えて繋がっていくんだっていう話はトータルに見えてきて、実は後で言おうと思っていました。

子育てがすごくここポイントになってくるんですけど子育てだけではなくて、他の福祉の部分にも直結する問題なので、そのあたりの地域活動をうまくトータルコーディネートするモデルがここから生まれると、今までいろんなところでやってきたんだけど、同じ人がいろんなことやってるんだけど、それでみんな疲れちゃうってのはもうそれはもうやめようと、もうそういうことはやめて、次のまちづくりとソフトと一緒にしながら、福祉もやるし、子育ても一緒にできるんだっていうものが見えてくると、すごく面白いなってのは、ちょっと刺激を受けたっていうのを一応言っておきたいと思います。

(増田会長)

はい。ありがとうございます。

今スクリーンに投影されているそのトータルコーディネート機能、これ寺池公園のまちづくり会議がこういう形の機能を持つのか。むしろ今まであるまちづくり会議そのものがやはりこういう方向性へ、成長、拡大していくというふうに考えればいいのか、その辺りはきっちり議論しないといけないと思うんですね。

推進協議会に関しても先ほどありましたように、固定的な形ではなくて、必要に応じてやはり拡大していくようなことあるいはまちづくり会議も必要に応じて拡大して、コーディネーター機能を持っていくということが、まちづくり会議の一つの方向性というふうなことかと思うんですね。

一番最初に(1)の運営会議のところで、どちらかというとプレイヤー発掘という話がありましたが、ひょっとしたら、運営会議、まちづくり会議のプレイヤーというのはもうすでにたくさんいて、むしろそれをどうつなげていくのか、それをどういう組織を引っ張ってきたらいいとか、そういう点もこっち側の、まちづくり会議運営会議でそういう視点を盛り込んで、まちづくり会議そのものが、ちょうど友田委員からご提案あったような、ああいうトータルコーディネーターの機能をどう獲得していくか、あるいはどう強化して、もともとトータルコーディネーター機能を持つというのは運営会議の一つの方向性やと思うんですけど、その機能をどう強化していくかっていうのを考えるというのも、運営会議にとって必要かもしれないですね。

はい、ありがとうございます。他はいかがでしょう。はいどうぞ。

(新里委員)

今災害がこのようにおきましたので、実を言うと防災部会っていうのが、この金剛まちづくりにもあったと思うんですけども、今機能していないというのがとても残念です。

で、これを機会に、もう一度ちょっと防災部会をしっかりと立ち上げ、立ち上がってますので、また再復興していただいて、金剛の防災っていう面をちょっと強化していただけるようにして欲しいなと思います。

(増田会長)

多分今の話を聞いていると、各地で防災訓練しているのは、避難段階、発災後3日間ぐらいのことしかやってない。

けど、その次の段階として3週間、3ヶ月という、そこでの関連死が非常に多いということを考えると、3日間命をどう守るのかと、発災後、ここは大分意識されて訓練されてるんですけど。そのあとの3週間、3日、3時間3日3週間3ヶ月という言い方しますが、極端なことを言うと、3ヵ月を見通した防災訓練っていうんですかね、そういうあたりがほんとうにないと、今日一番冒頭にもお話をさせていただいたように、29年前に発災した状態の避難場所の運営が、ほとんど変わってないん違うかなというふうな感じが非常にするんですね。だから、もう30年も経ってるわけですから。どうやってその、災害関連死をなくすような救援体制なり、できるのかっていう辺りはやっぱり日頃から考えてないと多分できないと思うんですね。今おっしゃっていただいたように、そんなことも意識しながら少し、初期支援の3ヶ月ぐらいをどうするかみたいなことも含めたような訓練ができると良いと思う。

(新里委員)

金剛中央公園が防災公園としての機能をもった公園になるかどうかが重要になると思う。

(増田会長)、

今回なんかの実態を見ていえるのは、結構やっぱり小学校の空き教室、もしくは体育館に、一時避難所ができるというのは非常に多くてそこでの劣悪な環境ってのは非常に大きな課題や、そのあたりでしょう。

はい。ありがとうございます。他はいかがでしょうか。お気づきの点ございますでしょうか。

あとは、プロボノを使ってリーフレットを作る時、リーフレットをどういうふうな形にするのか、だから、プレイヤーの参画を促すためのリーフレットなのか。それとも、周知するためのリーフレットなのか。あるいは先ほどあったもう少し連携先企業も含めた、あるいは教育委員会も含めた連携先を探すような意図を持ったリーフレットなのかという、リーフレットで、いろんな人が読んだ時に一番欲しいのは、どんな窓口でどういうルートで活動に参加できるんだとか、お手伝いできるのかというその道筋が示されてるような、そういうシナリオを示されてるようなリーフレットが欲しいなと思うんですけど、なかなか、少ないんですね。

きっかけの窓口はこのような形で、その次はどんなステップバイステップでどう成長するんですかみたいなそんなリーフレットになるとおもしろいと思うんですけど。

(廣崎委員)

プロボノワーカーの皆さんたちと話をしていると。こんなチラシも良い、こんなチラシも良いっていうふうに、色々意見が出て話が脱線したりしましたが、運営メンバーと共有しているのは、新たなオーナーの獲得を最大の目的としたリーフレットを作ろうということで今は共有しています。

(増田会長)

多分、目標明確にした方がいいと思うんですよ。違う目標のやつは違うリーフレットをつくれればいいんで。目標をぼやかしてしまうと、なかなか効果が発揮できなくて、なんとなく紹介パンフレットみたいになって終わってしまいます。是非ともそのあたりは焦点を絞って、作っていただけたらと思います。はい、ありがとうございます。他はいかがでしょう。よろしいでしょうか。

あとは友田さんの方からご提案があった金剛地区まちなかウォークブルと金剛地区再生の全体の推進体制についてですが、この辺りは多分ウォークブルプロジェクトとか、金剛地区まちづくり会議や、推進協議会や、そのあたりを、具体的にどう連携整理しながら評価していくのかという話があるかと思いますので後で少しウォークブルの説明があるときにもう一度、よろしいでしょうか。はい。他いかがでしょう。気になるところあるでしょうか。よろしいでしょうか。

あとはあの、もう一つ∞KONROOM なんかの SNS の解消の中で、SNS には基本的にデータを送るアドレスがいりますよね。インスタグラムや、ホームページみたいな待ち受け型の情報発信では弱くて、友達登録をすることができ、友達登録したところに情報をどんどん流していけるという機能をどう作っていくのかについて、何か考えありますか。

(事務局：寺田)

特に、もともと∞KONROOM はたくさん SNS を使っていて、インスタグラムや Facebook による発信は多かったが、LINE の公式アカウントも一応あったが、登録者数は引き継ぎ受けた段階で 30 人ちょっとだったので、おそらくですけども、前提として∞KONROOM を利用されるユーザー限定の LINE だったと思うのですが、それを∞KONROOM に一度でも来られた方に積極的に登録をお願いして、そうするとラインであれば、プッシュ型で通知がどんどん入っていくので、∞KONROOM のイベントであったりセミナー情報だけではなくてそこに、金剛地区でのまちづくり会議の情報であったりとか金剛地区でのイベントの発信をしていこうというふうに考えています。

ちょうど先週、事務局の方でそろそろ有料アカウントに切り換えないと、人数が増えてきたという話も出てきたので、今のところ力入れたいなと考えているのは、LINE の方での発信です。

(増田会長)

何でそんなことを言ったかというと、たまたま去年、堺市で、里山管理の 1 日ボランティアというのを過去ここ数年やってきたんですね。

広報と、少しのチラシで公募してきた時には、50 人集めることがなかなか大変やったんですね。去年、堺市で友達登録している SNS を通じて、募集したら、何とあつという間に 100 人を超えて、150 人を超えるぐらいの申し込みがあり、申込を断ったんですね。120 人ぐらいしか、要するに面倒見れないですから。

しかも今までの階層と違って、未就学児のある家族が非常に多かった。これはなぜかというとお父さん、お母さんにとしてみるとやっぱり子どもの間に自然体験させておきたいし、いろんな遊具で遊ぶんじゃないし、森の中で遊べるという機会がなかなかないとの理由でこられてあつという間に 100 人を超えたんですね。

やはり情報発信の仕方によって、ものすごく変わるなというのを実感したものですから、どんど

ん何かそういう SNS の友達アカウントみたいなことをしてそこに登録いただいてね、いろんな情報を流していくというのは、重要かと思いますので、よろしくお願いしますと思います。

他いかがでしょう。よろしいでしょうか大体。そしたら後は先ほどの話とかぶるところもあろうかと思いますが。市が進める取り組みということで、大学連携と、金剛中央公園の整備と、ウォーカブルな空間づくり。この3つご説明いただいて意見交換したいと思いますので、よろしくお願いします。

(事務局：小川)

資料 1. (3) - ①大学連携 (KLLP)

(事務局：松本)

資料 1. (3) - ②金剛中央公園・多機能複合施設等整備基本計画

(事務局：竹川)

資料 1. (3) - ③金剛駅周辺のウォーカブルな空間づくり

(増田会長)

はい、ありがとうございました。当初少し延びるかもしれないと言っていました。

11 時半の時間が来ておりますけれども、ご予約のある方は随時退出していただいて結構ですし、時間に少し余裕のある方は 20 分ほどですね。11 時 45 分あるいは 50 分までには終えたいと思いますので、お付き合いいただければありがたいと思います。よろしくお願いいたします。

それでは 3 点ほどご説明がございましたけれども、いかがでしょうか、お気づきの点から、意見交換したいと思いますけれどもいかがでしょうか。

はい。吉村委員どうぞ

(吉村委員)

中央公園の整備についての意見です。早く整備してほしいということは、僕はずっと言っていて、早くやっていただきたいということを前提にしながら、今もパブリックコメントが始まっておりますが、実はその前に報告というか、説明会が設けられ、僕もそれに参加しましたが、その報告の説明中身がもうなんか 1 人でバラバラな理解になって僕もよく分からないという状況で今進んでるなと思っています。

例えばどういうことかと言いますと、芝生グラウンドの整備のことですけれども、その芝生グラウンドのところでサッカーチームが練習していますが、芝生グラウンドにすることで使えなくなるのではないか、という声が出ていて、そういう意味で非常に懸念を持てるような発言が出たり、盆踊りを自治会でやっていますが、芝生グラウンドにすることでできなくなるのではないかとか、あるいは今聞いているのは、金曜日の朝にグラウンドゴルフをやっている人たちができなくなるのではないか、といったそういう声が出てたりして、その芝生グラウンドのイメージがもう全然バラバラ。

具体的に今聞いていることは、野球の申し込みができなくなることは聞いていますが、どうもグラウンドのイメージが分かっていません。

そういう点でもちょっと説明会そのものも非常に不満足、不十分じゃないかなというふうに思っ

てて、その中でパブリックコメントが起こってるということで、ちょっとそういう点では早すぎる
というか、説明不足で行われてるのではないかなと思ってまして、もう1点。

僕もよく分からないので、こういういろんな事業手法を考える時に資金調達、設計、施工管理運
営を鑑みて考慮するとおっしゃられて、最終的には財政的な問題もあってPFIとかいろいろおっ
しゃられて、いろいろ出るんですけどもその比較が、もう正直言いまして僕はそういうことに関
わったことのない、一般市民から見たらこの違いがさっぱり分からない。という中で、事業手法を
決めますよということになっているので、かなりそこに混乱がありましてね。

でもこれ個人的な感想で、間違いがあったらすいませんということをさきに前提で言いますけれ
ども、PFIのイメージが僕の中では非常に悪いです。確か武雄の図書館かな、あれがPFIのはじめ
であったのかなというイメージがあるんですけども、うちの家内があそこ行きましたけれども、
旅行でたまたま見て、図書館の見た目はとても綺麗だけれども、実際には図書館として全然使えな
いだと、そういうものが作られて運営されて、非常に人气が悪くなっているってということも聞いて
います。それからもう一つこれも個人的な経験で言って申し訳ないですけども、民間手法という
ことで、僕は実はすばるホールを市役所にするというときに、やめて欲しいとか、文化ホールを残
して欲しいという活動をしている中で、もう文化施設に民間の手法が入ってくるというのは非常に
困るということを今実感してまして、あそこは委託管理ですから、委託管理業者を指定した形で
進むんですけども、それでいって文化施設というのは委託管理だとか民間をどんどん入れていく
というのは、非常にそれを使っている人間、あるいは文化に携わる人間については、非常に困る意
見がものすごく出ています。

だから、そういう点で民間がすべていいという形で、すべて民間が入ってくるのがいいという形
での手法といいますかね。それはちょっと僕どうかという考えがありまして、公的なやっぱり、役
割、市の役割、そこに市が役割を持つあるいは市民がいろんな形で意見を言えて、その意見が反映
しやすいかを考えたら、これお金の問題あるんですけども、公営、公設公営、これがいいのかな
と思って、すごく迷っています。

そのあたりがはっきりしない中でのパブリックコメントがこの2月5日までやったかな。そう
なって、決めていくということですから。非常に僕として何かよく分からないうちに進んでるなど、
最低今言っておきたいのは、今後も運営の段階に入ってきて運営の段階に入ってから、管理と
か運営についてはもっと市民の意見があるいは状況が、市民の声が反映されるようなものとして考
えていかないといけないのではないかな。

そこら辺よく分からないのでね、そのあたり非常に考えて欲しいな。

これいろいろ見ておりまして、地域事業者の方の意見を聞くということもありましたから、見て
るとね、やっぱり事業者の方も、あの中でカフェするとかいろんなことがあるかもしれませんけれ
ども、それについても、地域の事業の意見聞いてくれというふうな言葉意見があったと思うので。

地域の意見をどれだけ生かせるかということが、今後の設計もそうですけれども管理運営につい
ても、非常に大事なことかなと思っていますので、その点を本当に反映できるような、方向を出し
て欲しいなと思っているのが、僕の今の現在の状況です。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。

大きくは3点ほどありましたが、何か事務局ありますか。それとも時間の関係上、ご意見として聞いとくかどうか。

1つは芝生広場と言ってるところの、今までの地域利用が可能かどうかということがひとつ。それともう一つは、整備手法の中で、公設公営型ではなく、民間手法の導入についていかがなものかというお話が2点目、3点目が地域住民の意見の反映の仕方と、3点に集約できるかと思うんですけども。簡潔に何かご報告できますか。

(事務局：松本)

はい。前回の中間報告では、芝生広場 5500 平米ということで、そういった高度利用もできないところとか、なかなかこれまでの活動もできないんじゃないかっていうところもお声をちょうだいいたしまして、その中で芝生機能はもうちょっとコンパクトにして、多目的広場的なところを、設計の段階でしっかり決めていきたいなと思っております。

これについては、いろんな方々の意見とか、設計の中で聞きながらすべて調整したいなと思っております。

続きまして、公設公営のところについても、一旦考えられる時に、住民のそういうニーズであったりとか、予算的なところが期待できる、PFI っていうところもあるよということで1回今回整理させていただいて、現在はパーク PFI と DBO 手法っていうのを、案としてはあるなっていうところで紹介をさせていただいております。

実際には、細かい手法については来年度、しっかりともうちょっと精査していきますので、よろしく願いいたします。

3点目ですかね、地域の声だったりとか、地域事業者の声も、設計の段階で、きっちり聞いてやって参りたいなと思っておりますので、これについても、引き続きどうぞよろしく願いいたします。以上です。

(増田会長)

はい、これもう一度説明会あったんですかね。まち会議に関しては。

(事務局：松本)

はい。そうですね。17日に、予定しております。

(増田会長)

ここでも議論いただければいいと思います。

(事務局：松本)

よろしく願いいたします。

(増田会長)

これもちちゃんと今後に向けてという話の中で、利用者となる住民等の意向把握に引き続き努めるというふうなことをきっちりと書き込んでいただいていますので、基本的には、事業優先型ではなくて、きっちりと地域の声を聞きながらやるというのは、この基本計画の中に書かれていますので、それはぜひ市の方は、書くだけではなくて実行、お願いしたいということだと思います。

(事務局：松本)

承知いたしました。

(増田会長)

はい。それともう1点、公設公営なのかにも関連して、64ページの表を見ますと、一になっているところはすべて公共になります。指定管理の場合、資金調達公共で設計施工は一になっていますが、通常の指定管理の設計施工は公共ですね。その次に管理運営は民間で、所有権については整備中・運営中・運営後も公共です。その他も公共が抜けているかと思いますが、修正していただければと思います。

指定管理者は、いろんなところで、プラス評価をされているところとマイナス評価をされているところがあって、一概に指定管理制度とか民営がまずいということでは私はないと思います。やり方だと思うんですね。

公共よりも少し気軽に動きやすくなったから、より市民連携が活性化しているというような指定管理業務もありますし、少しやはり、法的機能に対する発揮の仕方が弱いという場合もあるし、場所によって違ってくるので、これはやはりどうやって、指定管理者を選んでいくのかというのが非常に重要になってきますので、そのあたりを大事にしていきたいと思います。だから選考の過程と言うんですか、それともう一つはやはり、民活民活言ってますけど、実態として、本当に民間が出てきてくれるだけのポテンシャルのあるエリアなのかどうかということも一つ課題とあって、ひょっとしたら公設公営でしかないのか、ということもありますので、それはちょっと成り行きを見ていただいたらいいのかな。

ただ少し分かりにくいということございましたので、もう1回説明するときは、今のご指摘を踏まえて、極力分かりやすく明確にご説明いただければと思います。そういうことでよろしいでしょうか。はい。他いかがでしょうか。はい、新里委員どうぞ。

(新里委員)

今回、この施設の中身がもう子育てオンリーのような設計になっているような気がしてしょうがないんです。

で、一応児童館機能ってことで、児童児童という形で出していて、実は児童って言っても18歳未満を児童というので、もちろん中学、高校まで入るんですけども、このイメージ図が余りにも小さい子のね、絵図になっていて、多分、中学生高校のお母さんからすると、私たちの子どもは利用できるのみたいな、そんな感覚を覚えると思うんですね。

で、この中でも、もう一つ気になるのは、やっぱり学習できる、そういう空間がしっかり書かれていない。

オープンスペースを利用したらいいっていうような説明も、ちらっと受けたんですけども、やっぱりみんなががやがや強い吹っ飛びところで、勉強っていうのは、集中してできるようなものでもないと思うし、やはり学習スペースっていう部分をもうちょっと見えるように書いていただいたらいいんじゃないかなと思うんです。余りにも小さい子の目線での、写真とかになっているような気がします。

(増田会長)

はい。ありがとうございます。

これもちょうど今パブリックコメント中で、そういうふうに見えないところ、先ほど多目的広場といいますか、これまでの地域活動をどう受け入れるのかみたいな辺りは、これまだ修正段階ですので、どうぞご意見いただいて、パブコメも含めて、見えるような形でと、多分意図としては書かれてて、自習というのはやはり、中高ぐらいの感じでしょうし、ワーキングみたいなコワーキングの中では世代交流やとかそういうふうな話は、もう少し、やはり、逆に未就学児を対象だけにしているのではないということを、もう少し分かるようにというご意見やと思いますので、事務局の方で考えただけたらと思います。他いかがでしょうか。

はい、喜多委員。どうぞ。

(喜多委員)

今の金剛地区で一番人が集まってくるのは関西スーパーなんですよ。関西スーパーの方には世代を問わず、たくさんの方が来られるんですけども、その周辺が歩行者優先になってないんですね。自転車がずらっと放置されている。車がががが通る。

そういうふうな状態でですね、あそこは居たいと思うような場所ではなかなかないんで、このままの状態、中央公園を整備してもですね、なかなかその流れがですね、関西スーパーに行って中央公園に流れていかないんじゃないかと思う。

ただ、関西スーパーと中央公園が一体となったようなことを考えないと、例えば、交差点は歩行者にとっては、非常に渡りにくい交差点になってるんですね。

まあ、1例ですが、あそこをスクランブル交差点にするとかですね、人の流れをもっと歩行者に目線を置いたような人の流れを、確保できるようなことをやらないと中央公園と、関西スーパーで一体的な発展はなかなか難しいんじゃないかなっていうふうに思いますね。はい、以上です。

(増田会長)

はい。これも多分、基本計画の中で周辺関連整備。周辺公共関連整備どこまで書くかということですけども。いまみたいな部分、歩行者の利用動線みたいなやつを、きっちりと検討しますみたいな文言をどっかに入れとかなないといけないんだろうと思うんですね。これも少し、本編最終仕上げる時に、ご考慮いただければと思います。ありがとうございます。他いかがでしょうか。

(友田委員)

ここに子どもの遊び場の施設が入ってるんですけどもね。このイメージなんか見てたら、例えば、

ボーネルンドみたいなものを誘致して子どもが遊べるような状況を作りますよみたいな形になってるんですけども、先ほど会長からもポテンシャルの話があったように、そういうものになっていくのかどうか。それからお金を出しながら遊べるような、消費者なのかどうかとか、そんなこともあるのでね、やっぱりもう少しコミュニティビジネスみたいなものでこういうようなものを作ったり、また∞KONROOMの話の中でも、子育てを少し離れた方々が、この地域へ入るとか、そういうとか、社会活動に入ってくるとか、そういう機会の場をもっと提供するとか、それとセットで子育てができる事なんかの方がもっと地域でおられる。

そういった方々が入るとか、もう少し地域と連携しながら運営するっていうことを評価するような項目をね、きっちりと書き込んでもらって、その提案分、多分企業が提案してくるんでしょうけども、その中に地域とこういう連携をしながら運営し、成り立つようにしていきますとか、いうことも評価されるような文言とか記述とか、そういったものを入れてもらった方がありがたいなと思います。

(増田会長)

はい。ありがとうございます。これ先ほど小野先生もありましたように、この推進会議が目的としているのはハード整備だけではなくて、管理運営も含めた、ソフトと一体となった、何らかの空間整備というのは大きな目標ですから、今ご指摘いただいた視点が抜けてないかどうかを、チェックを是非ともいただきたい。

いずれにしても選定するときのパーク PFI にしろ、指定管理者制度にしろ、1 年目 3 年目 5 年目みたいな外部評価を受けてるところもたくさんございます。きっちりと提案されたことが実現できてるのかどうか。だから選考するとき、地域ニーズを把握してるかとか上手くプログラムが組み込まれてるかとかいう、基準を入れるというのと同時にやはり、今後のことになろうかと思えますけど。

やはり進行管理の中で、文言だけ良いこと書いてて、そこが採択された後の自己評価の仕組みですね。

この辺りは是非ともこの基本計画に入ってこないと思いますけど、何らかの事業評価、事業手法選択する時には、事業評価の仕組みを考慮して、事業指標を選択し、運営してもらいたいなと思います。はい、ありがとうございます。他いかがでしょうか。はい。

(中井副会長)

PFI とか、パーク PFI 等の民間活力を使うという時に一番問題・今後の課題になるのは、整備水準書をどこまで書き込むのが話題になってくるはずですよ。

そういう意味では基本計画の中に盛り込まれてるような内容が、基本的には整備水準書の中にすべて盛り込むと、今ご指摘を受けてる内容についても、織り込んでもらえば、それに合った形の提案がなされてくると思うので、ただ需要があるかないか、その辺別の話ですけども、書き込んでしまった需要はなくなって、応募者がいないという状態になるかもしれませんけども、今の段階では色んな所で受けた意見というのは、整備水準書に反映させてもらいたいなと思います。

(事務局：松本)

会長、副会長からご意見いただいて、要求水準的なところをしっかりと、次の業務で書き込んで、途中の進捗がなされてるかどうかの管理ですね、モニタリングっていうことをしっかりとやっていきたいと思いますので、引き続きどうぞよろしくお願いします。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。もう1点ちょっと気になるのは、ウォーカブルで最初に友田さんがご報告いただいた2枚あって、ウォーカブルでああいう、トータルコーディネーション機能みたいなやつを、ビジョンを書くときにどういう関係性を金剛地区再生計画と、限定されたウォーカブルの空間と、どう連携さすのかとかどう位置付けていくのか。

このあたり非常に重要で、何か金剛地区再生計画トータルとしてやってるのに、何かウォーカブル空間だけそこから飛び出したような形になってしまわないようにっていう事が非常に重要だと思います。はい、友田委員。いかがでしょうか。

(友田委員)

6ページの組織図・体制の所でウォーカブルの切り出してる部分がここだけなんですよ。

ここだけの話をしたって、金剛地区全体の方々が、本当に生き生きと生活できるような、ここに書いてある形のウォーカブルってどういうことですかって書いてましたけども、まさしくあれなんですよ。ああいう実態になるかどうかっていうことなんですよ。

金剛地区全体の方々がやっぱ日常的に動けるような形とか目的とかがあって、それで特に週末とか、イベントがある時、こういうところでいろんなことがされてるということで、これと関係付けていくとか、そういうもともとの動機っていうのは、ここだけでは作りえないんで。

もう少し広いエリアで考えながら、そういった動きやすい形とか、活動しやすい状況とかをコミュニティとセットで作りながら、こちらの充実をしていくと。

全体の絵を書いていたきたいなと思ってて、このコミュニティごとの全部のことが行政でしなさいとかそんなじゃなしにして、この地域で考えていったらいいけども、地域ではこういうことをやっていきましょうねとラジオ体操やるとか、それとかストレッチをやりましょうとかいろいろやってるとか、そういうのを示しながらね、みんなでそういう取組をして、集まった時にはここでやったいつもそうで、そういう時には、みんなで歩いてここに来て、楽しみにいろんなものを共有しましょう。

というような全体のストーリーと絵を書いて、ウォーカブルのまちづくりを進めるんですよ。進める体制につきましては、先ほど書いた次のページのような形をどういうふうに作っていくのかということを議論させてもらえればなと思っています。

(増田会長)

はい。ありがとうございます。非常に重要な視点で、そのあたりについては多分、社会実験する推進チームというよりも、その上の検討チームですね、ビジョンを作る。そこでの議論として、非常に重要な視点かと思いますが、何か状況から、答弁ございますいかがでしょう。

(事務局：塚本)

この場でぱっと答え出すのは難しいなと思いながら聞いているんですけども、基本はまず再生指針っていうものがありまして、その中で、エリア全体のお話もしてます。

ウォーカブルの部分については、今回対象にしているのはふれあい大通り中心にっていうことで対象にはしているんですけども、一応今回はウォーカブルビジョン案ということで、案を作っていこうと思ってまして。

一応この案という形で策定したいとちょっと考えているんですね。当然これがまたできてやっていく中で、範囲をどうしていくとか、中身をどうしていくかっていうのは当然アップデートしていける内容かなというふうに考えていますので、とにかく今後のちょっと議論の中でですね、再生指針っていうのがまず根幹にあるということをしかり意識しながら、どうできてるかっていう辺りを、皆さんと議論したいなというふうに考えております。こんな答えで申し訳ございません。

(増田会長)

いえいえ、やはり再生指針という全体構造と、要するにこのふれあい大通りを中心とした部分。

部分と全体の関係性をどう取っていくのかという辺りは是非とも注意しながら、検討っていう検討案を作っていただければと思います。そんなことでよろしいですかね。はい、ありがとうございます。はいどうぞ。

(新里委員)

はい。ふれあい大通りっていう部分を考えたときに、UR と第3住宅、これは隣接しているんですね。で、この隣接しているところもやはり協力をしていただいた形で、この通りをね、やっぱり考えないと、貧弱なものになってしまうのではないかなというふうに思うので、ぜひその辺の協力を得ていただきたいなと思います。

(事務局：塚本)

はい。今回の検討チームの方にですね、周辺町会さんなんかもお声掛けしながら進めていこうと思っております。ありがとうございます。

(増田会長)

はい、どうぞ。

(中井副会長)

今のお話と関連する話で、先ほど喜多さんからお話ありましたようにショッピングモール、関西スーパーの辺りに人だまりができています。

そういう意味ではウォーカブルの空間を作る時にそこを抜いて検討するっていうのはいかなものかなと思うので、今の第3住宅もそうですけど、そんな今の検討エリアの中に入れる入れないを別にして、そことの関連は議論してもらったらいいいと思います。

(増田会長)

ありがとうございます。多分ね、そのふれあい大通りでいうと、沿道の土地利用とか沿道のあり方っていうのが一体でないと、通りだけで完結しないんですね。

そのあたりをきっちりと念頭に置いて、公園も一緒ですね、公園の周辺、ちょっと土地利用とか、周辺用途との関係性の中で成立しますので、周辺あるいは沿道エリアに関してというところをかなり強く意識して、じゃなければと思うんですけどね。はい。何かご発言あれば。

(事務局：塚本)

この今回色塗ってるところにつきましては、あくまでも設定してる区域ってことになりますので、当然そこに対する滲みだしとか、それに対してもちろん私も意識してやっていこうと思っておりますので、以上でございます。

(増田会長)

はい、ありがとうございます。はい、品田委員どうぞ。

(品田委員)

すいません。先ほどお話ありました推進業務のこのエリアの設定ですけども、これももう以前から申し上げてるんですけども、金剛駅があって、駅前広場が大阪狭山市ということで、大阪狭山市さんとの連携もお願いしたいなと。たまたま昨年度から大阪府で、このニュータウンの連絡会議みたいなのをやっていて、南海さんも入ってますんで、その辺また調整させていただければと思います。

(増田会長)

はい。ありがとうございます。当初考えていた時間より大幅に拡大して 12 時になりますけどもそろそろ議論を終えたいと思いますけども、よろしいでしょうか。はい、分かりましたありがとうございます。かなりやはり共通する課題というんですかね、全体を見渡した課題が議論できるのは、まち会議とこの推進協議会やと思いますので、やはりここはある一定トータルコーディネーション的な機能を持ちながら展開していければなと思います。事務局の方、よろしくお願いします。遠慮なく 2 時間最初から設定してもいいと思うんですけど、1 時間半ではなくて。はい、すいませんありがとうございます。事務局に皆さん方、いろんな自由な発言、活発な発言いただきましてありがとうございました。事務局にお返しします。

(事務局：松本)

すいません。本日はお忙しいところご尽力いただきまして、ありがとうございます。今回様々なご意見を頂戴いたしまして、またこちらも踏まえまして、金剛地区再生に向けてですね、取り組んでいきたいと思っておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。これで閉会いたします。